

第2章 小郡市の自殺の特徴

1 統計から見る小郡市の自殺の現状

自殺者数に関連する統計として主に用いられるものとして、厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」が挙げられます。

厚生労働省「人口動態統計」は、日本における日本人を対象都市、住所地を基にした統計である一方、警察庁「自殺統計」は、総人口（外国人を含む）を対象とし、発見地及び住居地を基にしています。

(1) 自殺者数の推移

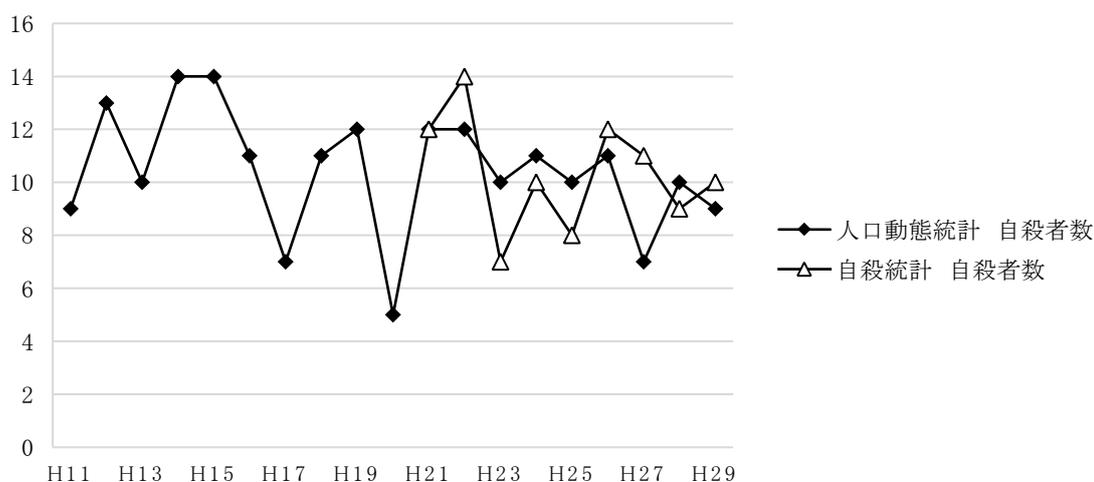
小郡市の年間自殺者数は、平成25年から平成29年までの5年間の平均は10人で、年による増減はありますが、概ね横ばいの状況となっています。

○自殺者数の推移（住居地）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
全国	27,283	25,427	24,025	21,897	21,321
福岡県	1,124	1,081	954	873	877
小郡市	8	12	11	9	10

出典：警察庁「自殺統計」

小郡市における自殺者数の推移（平成11年から平成29年）



(2) 男女・年齢別自殺者数

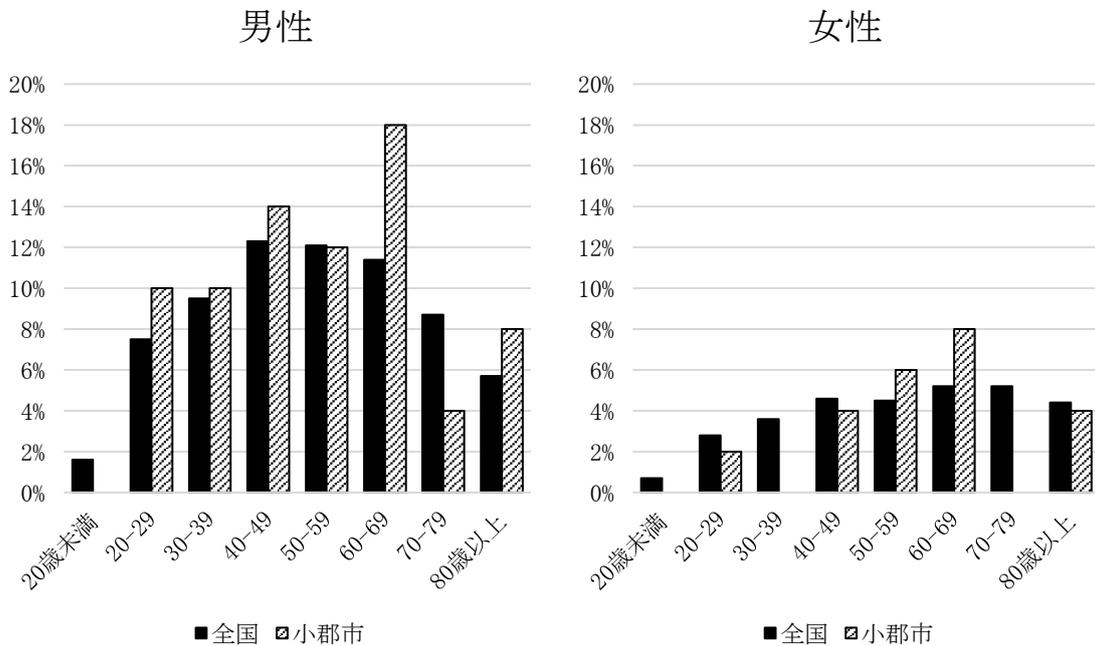
平成25年から平成29年までの小郡市における自殺者について、性別・年齢階級別で見ると、60歳代男性、40歳代男性、50歳代男性の順で多くなっています。また、60歳代の割合が、全国に比べると男女ともに多くなっています。

○小郡市における自殺者の男女・年齢別集計

年齢区分	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
男性	0	5	5	7	6	9	2	4
女性	0	1	0	2	3	4	0	2
合計	0	6	5	9	9	13	2	6

出典：警察庁「自殺統計」

○小郡市における自殺者の男女・年齢別割合



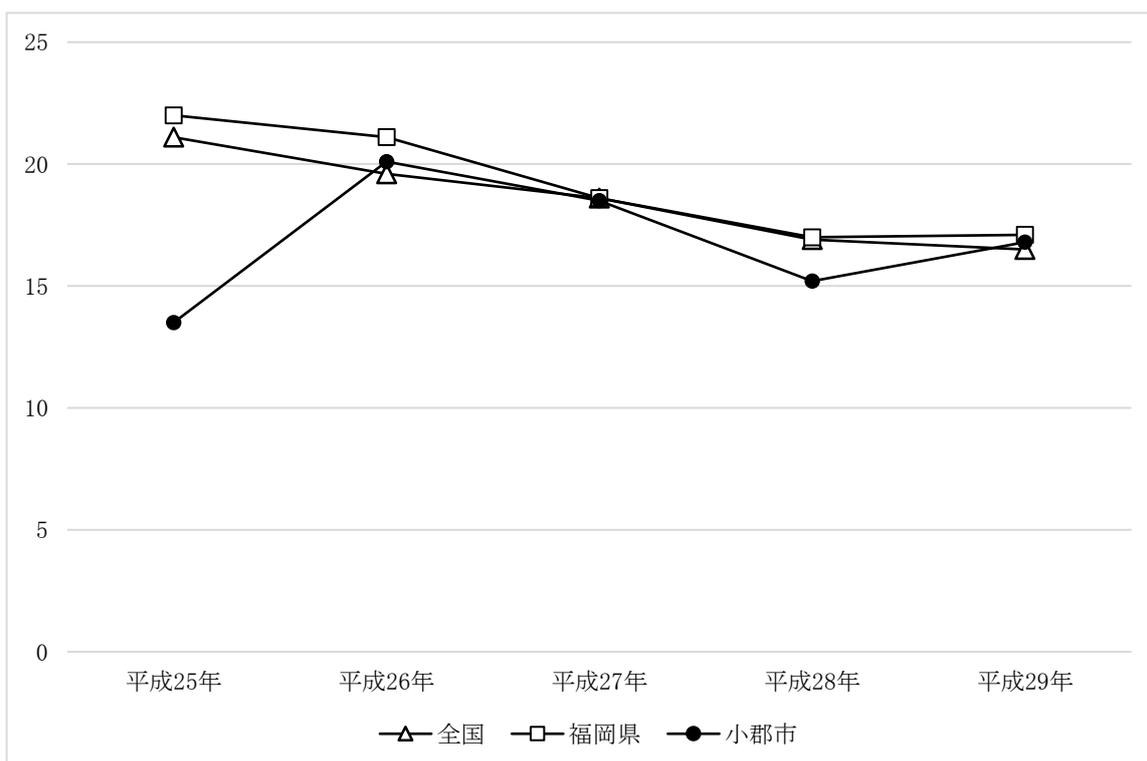
(3) 自殺死亡率の推移

人口10万人あたりの自殺者数を自殺死亡率といいます。小郡市の自殺死亡率は、平成26年に急上昇したものの、低下傾向にあり、福岡県、全国の自殺死亡率と比べても概ね下回っています。

○自殺死亡率の推移

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
全国	21.1	19.6	18.6	16.9	16.5
福岡県	22.0	21.1	18.6	17.0	17.1
小郡市	13.5	20.1	18.5	15.2	16.8

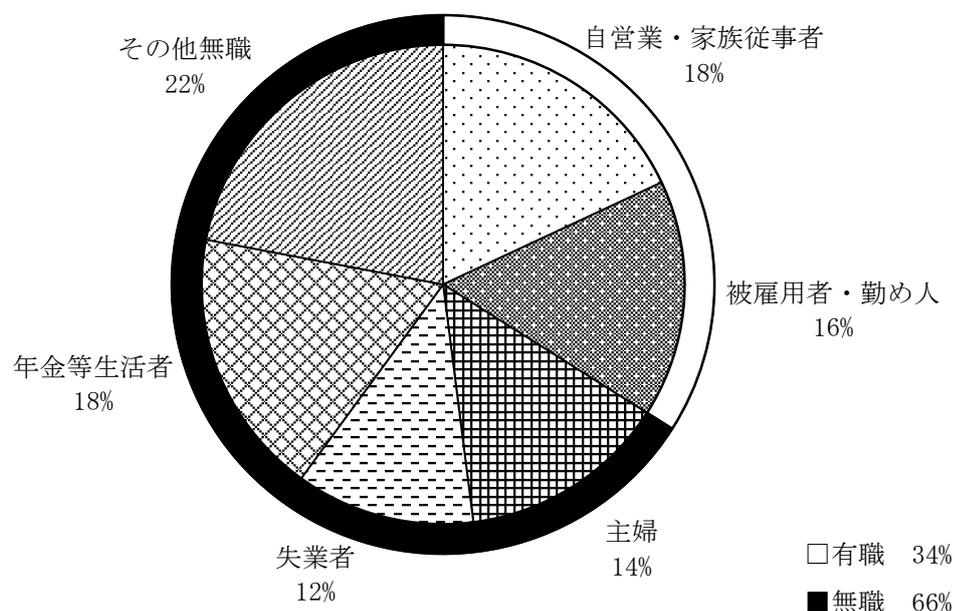
出典：警察庁「自殺統計」



(4) 有職者・無職者の割合

平成25年～平成29年に自殺で亡くなった50人のうち、自営業・家族従事者、年金等生活者がそれぞれ18%と最も多く、次に被雇用者・勤め人の順となっています。また、有職者・無職者の割合をみると、66%が無職者であり、無職者の割合が高くなっています。

○自殺者における有職・無職およびその内訳



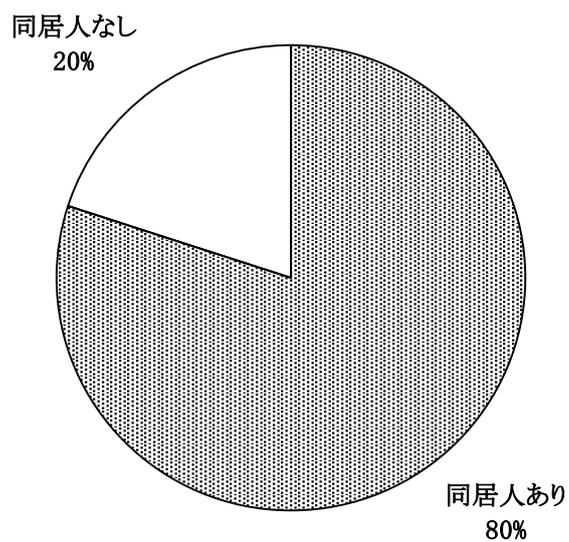
		人数	合計
有職者	自営業・家族従事者	9	17
	被雇用者・勤め人	8	
無職者	主婦	7	33
	失業者	6	
	年金等生活者	9	
	その他無職	11	

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」

(5) 同居人の有無

同居人の有無別で見ると、平成25年～平成29年に自殺で亡くなった50人のうち、同居人がいる人の割合が80%でした。

○自殺者における同居人の有無



出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」

(6) 小郡市におけるリスクが高い対象群

小郡市における自殺者の平成25年～平成29年の5年間の累計について、性別・年齢・職業・同居人の有無による自殺者数や自殺死亡率を比較すると、自殺者が最も多い区分が「男性・60歳以上・無職・同居」であり、次いで「男性・20～39歳・無職・同居」と「女性・60歳以上・無職・同居」と続きます。

○小郡市における高リスク対象群

上位5区分*	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率 (10万対)**	背景にある主な自殺の危機経路の例 ***
男性60歳以上無職同居	7人	14.0%	30.6人	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
男性20～39歳無職同居	6人	12.0%	111.7人	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺/②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
女性60歳以上無職同居	6人	12.0%	16.6人	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
男性60歳以上有職同居	5人	10.0%	37.2人	①【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺/ ②【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→自殺
男性40～59歳有職同居	5人	10.0%	16.1人	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺

*順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした。

**自殺死亡率の母数(人口)は平成27年国勢調査を基に自殺総合対策推進センターにて推計した。

***「背景にある主な自殺の危機経路の例」は自殺実態白書2013(ライフリンク)を参考に、危機経路を典型的に例示した。

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」

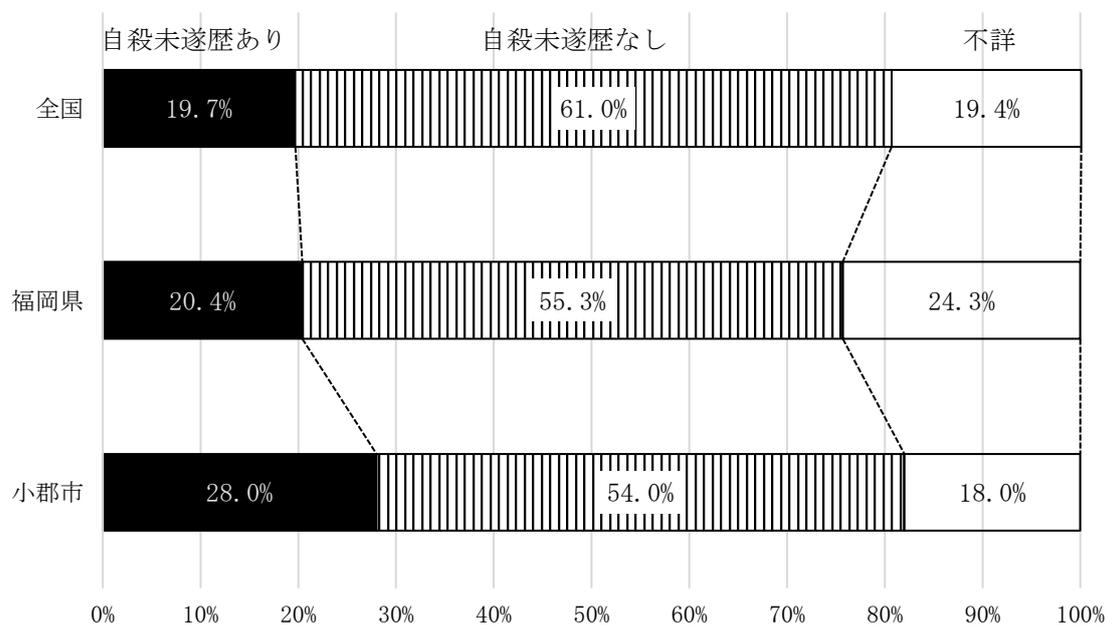
(7) 自殺未遂歴の状況

小郡市では、平成25年～平成29年の5年間の自殺者のうち、自殺未遂歴のあった者の割合は28.0%であり、全国の19.7%と比べて、かなり高くなっています。これは自殺で亡くなった市民の約3人に1人が、亡くなる前に自殺未遂を経験していたということであり、一般的に自殺対策のうえでハイリスクの対象とされる未遂者が、小郡市においては、よりリスクの高い状態にあることを示しています。

○自殺者における自殺未遂歴の有無

自殺未遂歴	あり	なし	不詳
全国	233,391(19.7%)	72,478(61.0%)	23,026(19.4%)
福岡県	999(20.4%)	2,715(55.3%)	1,195(24.3%)
小郡市	14(28.0%)	27(54.0%)	9(18.0%)

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」



(8) 原因・動機別自殺者数と原因・動機別割合

小郡市の自殺者の原因・動機について、警察庁「自殺統計」(3つまで複数計上可)によると、平成25年～平成29年の5年間の累計で、多い順に健康問題の23件(34.3%)、次いで家庭問題と原因不詳が各12件(17.9%)、勤務問題の11件(16.4%)等と続きます。

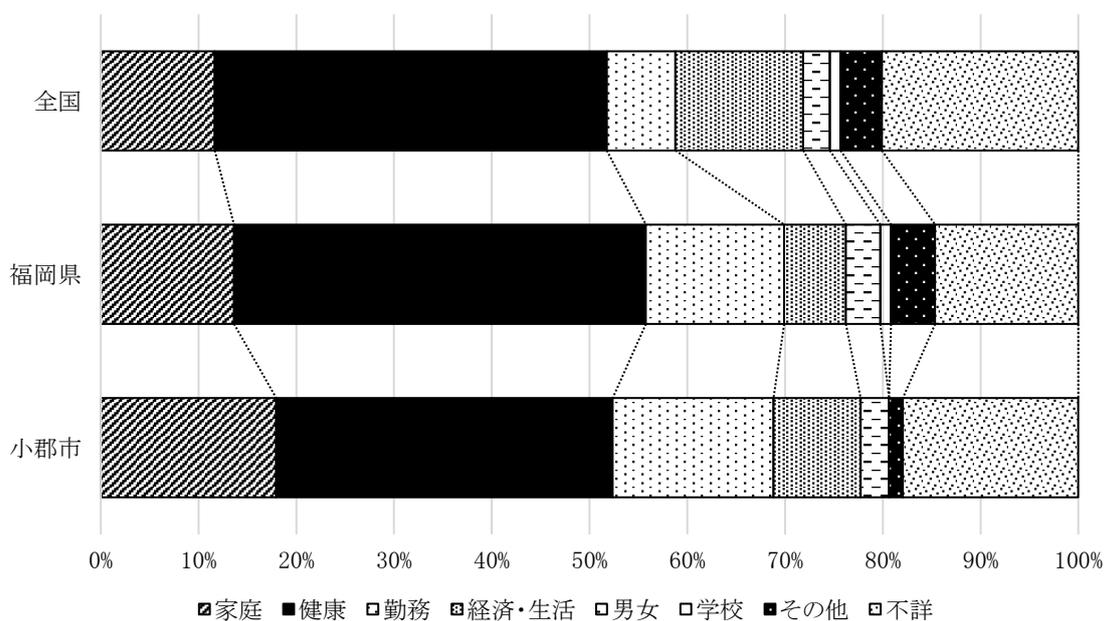
この原因・動機を全国や福岡県と比較してみると、健康問題が最も高い割合であるのは共通しますが、家庭問題と勤務問題の割合が高くなっています。

○原因・動機別自殺者数

	家庭	健康	勤務	経済・生活	男女	学校	その他	不詳
全国	17,731	60,537	10,678	19,848	4,120	1,779	6,475	30,464
福岡県	740	2,285	767	343	195	64	248	794
小郡市	12	23	11	6	2	0	1	12

※原因・動機を最大3つまで計上可能としているため、原因・動機別人数と実人数は一致しない。

出典：警察庁「自殺統計」



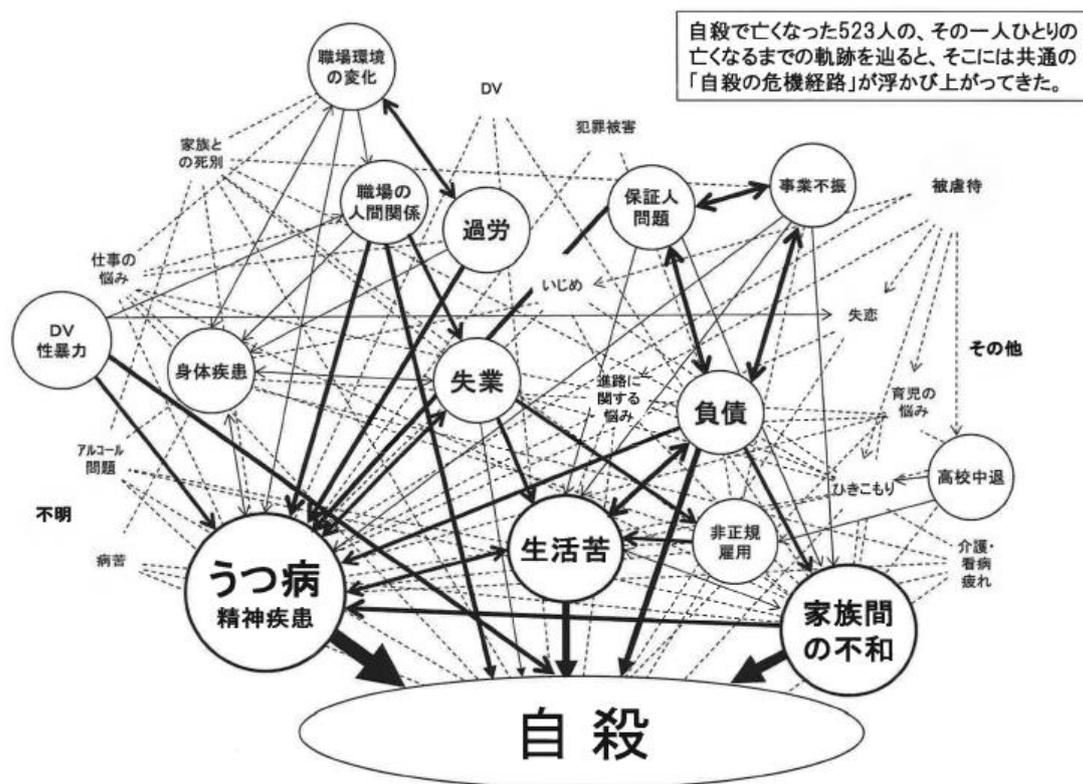
2 自殺の危機経路

自殺に至る原因や動機については、様々な要因が複合的に絡み合っているとされています。自殺の原因を単独のものとして比較することは、自殺の実態について誤解を生じかねず、適当とは言えません。

NPO法人自殺対策支援センターライフリンクが行った「自殺実態1000人調査」では、「自殺の危機経路」と以下の図のように示しています。この図中の円の大きさは自殺要因の発生頻度を表しており、大きいほど要因の頻度が高いことを示します。また、矢印の太さは各要因間の因果関係の強さを表しています。

この図からは、直接的な要因としては「うつ状態」が最も多いものの、その状態に至るまでには複数の要因が存在し、連鎖していることが分かります。

この調査では、自殺に至るまでに平均で4つの要因を抱えていることが明らかとなっています。



自殺の危機経路図

出典：自殺実態白書2013（NPO法人自殺対策支援センターライフリンク発行）